

# 「あそび」のボランティア入門講座と関連書籍

立教大学文学部教育学科教育学専攻3年  
社会教育実習生 茅野俊介

## 「あそび」のボランティア入門講座

### 講座の概要

この入門講座は、横浜市青少年育成センターとNPO法人横浜にプレイパークを創ろうネットワーク(以下YPC)が協力して行われた。初回は、2022年8月1日にさくらリビングで参加者のオリエンテーションが実施された。オリエンテーションでは、YPCによるプレイパークの紹介などを行った。その後、参加者が子どもだった時を振り返り、参加者がプレイパークでボランティアとして活動をするイメージを膨らませたり、心の準備を行ったりした。そして8月2日から9月22日の期間に、参加者各自が横浜市内のプレイパークでボランティアとして活動に参加し、実習を行った。実習の参加者は、子どもたちの安全を考えながらプレイパークの設営を行ったり、プレイパークで子どもたちと一緒に自由に遊び、見守る活動をした。参加者は、その実習のまとめとして2022年9月23日にさくらリビングで振り返りが行われた。

### ↓実習の様子



### 振り返りの中で

振り返りの中で、参加者が経験したことを各グループに分かれて共有した。参加者の話を一部紹介したい。「子どもたちが自分たちの想像を超えた遊びを行っていた」や、「子どもたちと遊ぶことなどが苦手なので、それを少しでも克服したくて、このボランティアに参加した」という話が印象的であった。というのも、私は、「ボランティアを通じて、苦手なことを克服したい」という視点がなかったからである。ボランティアは、参加者の得意なことを活かして行うものだばかり思っていたからだ。各自の経験を共有した後、「ボランティアとは何か」というワークに入っていた。参加者が挙げたボランティアのイメージは、「無償で」、「自分から」などの意見があった。そして、参加者が考えるボランティア像を2つのグループに分かれて、それぞれの意見を共有した。

### ↓振り返りの様子



まとめにかえて

私が考えるこの入門講座のターゲットは、ボランティアに参加したい人である。そして、期待されていることは、外で遊ぶことの楽しさを伝えることであろう。実際の参加者は、ボランティアに興味がある人や子どもとかかわる仕事を考えている人、学校の課題の1つとして取り組む人がいた。

アンケートによると、参加者のこの事業に対する満足度は高かった。振り返りの中でも参加者が、「ボランティアとはどのようなものかを考えることができた」や、「子どもたちが自由に遊んでいる姿を見て、自由とは何かを考えさせられた」などの感想が挙げられた。

「ボランティアとは何か」、「自由とは何か」ということに対する明確な答えはない。というのも、参加者と子どもとの関わり方や年齢が全く異なるため、完全に考えが一致することはないからだ。しかし、議論などを通じて他の参加者の意見を聞くことで考えを深めることが出来ただろう。

答えの見えない問題を考え続けることは確かに難しいが、参加者同士で共有したことや話し合ったことを基にしたリ、さらなる活動に参加したりすることによって考えることを続けられたらと思う。

この事業の参加者には、子どもたちと自由に遊んだことや、事業を通じて学んだこと、感じたことを思い出し、その経験や学びを他の場面や活動でも活かしてほしい。

## 外遊びに関するおすすめ書籍



ネイチャーエデュケーション／著 長谷部 雅一

この本では、自然遊びの知識やテクニック、ヒントを紹介している。

特に第3章「自然遊びをするためのテクニック」では、親・指導者が自然遊びの中でも、自然遊びの場以外でも活用することができる様々な子どものかかわり方のアドバイスが収録されている。なので、子どものかかわり方に不安がある人や、子どものかかわり方をより良くしたい人におすすめである。



遊び場のヒミツ／著 羽根木プレーパークの会

この本は、東京都世田谷区にある羽根木プレーパークという遊び場を舞台として、様々な遊びやそこで実際にあった出来事が紹介されている。遊びのメニューとして、木、火、水、土の4つの項目がある。どの項目もイラスト付きであり、その項目にまつわる、体験談とヒヤヒヤ、ドキドキしたことが紹介されている。

特に、大人のための子どもの遊びをめぐるQ&Aでは、様々な質問に回答しているので、プレイパークの歴史、使用方法、注意点などを理解することができる。



地域で遊ぶ、地域で育つ子どもたち／著 深作 拓郎他

この本は、「遊び」と「地域」をキーワードとして「子育て支援」のあり方をより深く考察している。「遊び」と密接に関係している「地域」にも着目し、各地で行われている実践例も紹介されている。第1部3「地域のジレンマ」をのりこえ、子どもの遊び豊かな地域へでは、地域と公園が抱える問題点が述べられており、まず先に子どもたちが集まることができる「場」を作ることが重要であると述べている。「～をする場所」と決めるのではなく、子どもたちの思いのままに遊べる施設の重要さも説いていた。